

「子ども達を国連子どもの権利委員会での意見表明の場に派遣したい」

—ご寄附、クラウドファンディングへの参加をお願いいたします—

2018年2月上旬に国連子どもの権利委員会（ジュネーブ）で、子どもの意見表明が予定されています。今までCRC日本では、子どもの権利条約に基づき日本の子ども状況についてカウンターレポートをまとめ、子ども自身も『子ども報告書』を作成、提出してきました。『子ども報告書』および子どもの意見表明は、国連子どもの権利委員会から日本政府に対して出される『最終所見』に決定的な影響を与えます。そこでCRC日本は、直接国連の委員に子ども報告書の内容を伝えたい、と希望する子どもとその保護者8名あまりの国連への渡航等の費用支援を決定しました。そして子どもたちの渡航・滞在費用を皆様にご支援いただきたく、募金とクラウドファンディングを実施することにしました。4名分の渡航費と滞在費として60万円（1人あたり15万円）と、また報告書のブックレット製作費として20万円、合計80万円の設定です。詳細は以下リンクよりご確認ください。またクラウドファンディング以外のご寄付の方法でもお受けしております。その際には大変お手数ですが、下方の連絡先、またはお知り合いのCRC日本会員までお問い合わせいただけますでしょうか。

Campfire : <https://camp-fire.jp/projects/view/55765> (2017年12月20日公開)

『子ども報告書』は、第4・5回日本政府報告審査で「自分の思いや願いを国連の委員さんたちに伝えたい！」そのために「日本の子どもの“今”をもっと知りたい」と集まった「国連で意見表明をする会」の子どもたちが中心になって書き上げました。子どもたちは「子どもの権利条約日本（CRC日本）」のおとなと3年近くをかけて学習会を重ね、関係性を紡いできました。子どもは、「その人格の完全なかつ調和のとれた発達のため、家庭環境の下で幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長すべき」（子どもの権利条約前文）です。しかし、日本の子どもたちは、こうした環境を保障されず、子どもが思いや願いを自ら出し、おとなに受け止めてもらう意見表明権（12条）も理解されないままです。

8人の『子ども報告書』は、そうした日本社会の有り様、そして政府の対応を凝縮したものになっています。以下、今回国連へ提出した「子ども報告書」からの一部抜粋を紹介します。

先を生きる社会を作っていく子どもを意見表明の場へ！

日本で外国人として生きたい

M.R. (高校2年生 女子 東京都在住)

他と違ってもいいという当たり前のことを日本の教育のなかで私は一度も聞いたことがありません。

外国人というだけでからかわれたり、下に見られたり、偏見や差別がありました。

親に愛されることによって「他を認め受け入れる」心は養われます。親に愛され、自己を肯定できるならば、同じように他の人を肯定できるようになります。

少しでも多くの子どもが愛されることができれば、日本で暮らす外国人の子どもたちの痛みも無くなるでしょう。

これからってだれのもの？

S.Y. (高等専門学校4年生 女子 福島県在住)

私は福島市いわき市で小学校6年制の時、被災しました。

震災は忘れてはいけないものとだれもが思っているはずなのに、今、同世代でそれを共有し、学ぶ場がありません。

いわきのもともとの住民は、原発事故で避難してきた人たちが補償金で高級車を買ったり、大きな家を建てていると言い、避難してきた人たちは元からの住民に、「帰る家があつていい」といい、お互いひがみ合い、差別や偏見、軋轢などがたくさんうまれています。震災をタブーにして未来を子どもに丸投げしないで。

おとなは本当のことを伝えて

M.H. (高校2年生 女子 東京都在住)

私は震災当時、小学4年生で福島第一原発から約60キロメートル離れた福島県本宮市に住んでいましたが中学校に入学時に東京に自主避難しました。震災直後、放射線のことを知らず外で遊んだことをとても後悔しています。日本中の子どもが放射線について習うべきだと思います。

原発いじめの裏には「よくわからないから」との理由が少なくともあると思います。

事実を知り放射線に対する知識があれば少しはいじめが減ると思います。

振り向いてほしい

I. R. (高校1年生 女子 福島県在住)

仕事がとてもし忙しい父は常にイライラし、ストレスの矛先は幼い私でした。

「邪魔なお前さえいなければ俺は飲みにいけるのに」。暴言と暴力にさらされる私を守ることに母は必死でした。 やがて「いい子でいなければ捨てられる」と自分を否定すると同時に、父に振り向いてほしくていつも1番を目指しました。人間不信で不登校になった時期もありました。

どうかすべての子どもたちが無条件に愛され、守ってもらえるようになりますように。子どもの「ねえねえ！」という呼びかけに「なあに？」と振り向いてあげてください。

おとなは嘘つきだ

S. J. (中学一年生 男子 福島県在住)

東日本大震災当時、保育園児でした。放射能のことなど分からず、外遊びを禁じられ混乱しました。その後除染が行われましたが、場所や高さで線量が違い、本当のことがよくわかりません。政府も県もうそをついているのでは、と誤ってしまいます。

また、宮城県石巻市立大川小学校では、地震後に津波に巻き込まれ、児童74人が死亡しています。なぜ先生方は児童の「山に逃げよう」に耳を傾けてくれなかったのか。

おとなたちに強く言いたい。子どもに嘘をつくな。子どもの話をしっかり聞いて。

お母さんと暮らしたい

S. R (専門学校3年生 女子 埼玉県在住)

児童相談所(児相)の人は、「お母さんと話す間、ここで待っていて」と言ったのに、一切説明のないまま一時保護所に連れて行かれました。泣き叫ぶと、「泣きたいなら、ここで泣いてろ！」と、だれもいない部屋に私を押し込みました。

6ヶ月におよぶ一時保護所での生活は囚人のようでした。寝る前には強制的に薬を飲まされ、母への手紙も児相の人が言う通り書くよう強要され、母を嫌うような情報操作もされました。いちばん怖かったのは友達と話したり遊んだりすることを禁じられる「お一人様」という罰でした。

多様性を認めない学校には行きたくない

T. I. (中学2年生 男子 東京都在住)

日本の学校では、苦手だったり、恥ずかしかったり、やりたくないことを無理やりやらされます。いいところは褒めてくれず、悪いところばかりが取り上げられます。先生に何か意見を言うと「態度が悪い」と言われます。

扱いつらかったり、自分の意見を持って発言したり、授業がつまらないから勉強に身が入らないでいたりすると、すぐに「発達障害」「特別支援学級に行け」と言うのです。そんな日本の学校はおかしいと思います。

子どもは親の所有物か

山内太郎(仮名: 高校2年生 男子 長野県在住)

両親は私が5歳の時離婚し、母は父に黙って私を連れ去りました。裁判所は、母の申し出を優先し、私が父に会う機会を制限しました。母の家では酒に酔った母方祖父からライターの火を持って追い回される等の虐待紛いの行為を受けました。

不安な日々により安定性を欠いた私を、母は向精神薬の投与で抑えました。

11歳のとき、母の元を逃げ出し、父の元に戻りました。すると今度は、「父に親権が無い」との理由で行政から差別を受け、義務教育の学校に入学できないなどさまざまな権利を制限されました。

子ども達を国連での意見表明の場へ一緒に派遣しましょう！

子どもの権利のためのNGO 子どもの権利条約日本(CRC日本)

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-19-12-624 TEL/FAX: 03-5941-9560

携帯: 090-4061-5100 (代表: 福田)

Mail: office@crc-nihon.com

HP: <http://crc-nihon.com>

銀行明細: 三井住友銀行 国立支店 普通口座 7013094 名義: DCI 日本支部

前の団体名のまま
になっています

直接ご寄付いただいた場合のリターンもクラウドファンディングと同様な内容で考えております。詳細は電話、ファックスまたはメールなどでお問い合わせください。

また『子どもの権利条約ハンドブック』、『機関紙 権利モニター』などの個別販売も行っています。

入会ご希望の方、資料の請求や書物の注文、その他CRC日本の活動については事務局までお問い合わせください。